様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 12 日現在

機関番号：８２１１１
研究種目：若手研究（Ｂ）
研究期間：2010～2012
課題番号：２２７８０２１５
研究課題名（和文）キャリア分析による新規参入者の「橋渡し役」像と育成課題の解明

研究課題名（英文）Study of role and rearing problem of support farmer for new comer to farming by carrier analysis

研究代表者
島　義史（SHIMA YOSHIHIRO）
独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構・北海道農業研究センター・水田作研究領域・主任研究員
研究者番号：10414781

研究成果の概要（和文）：農業への新規参入者を支援する「橋渡し役」農家の多様な役割を、メンタリング機能の分類を援用することによって抽出、整理した。「スポンサーシップ」や「コーチング」に相当する支援は就農後の比較的早い時期に、「役割モデル」や「表出」、「挑戦的な仕事の提供」に相当する支援は新規参入者の定着プロセスが進むにつれて重要になることが明らかになった。「橋渡し役」農家の役割は新規参入者の定着プロセスにあわせて変化すると考えられ、新規参入者に提供する支援の重点を移していくという「橋渡し役」農家像が示された。

研究成果の概要（英文）：This research identified and inventoried the diverse roles of support farmers who support people who are newly getting into farming by classifying the various functions of mentoring. In the early period after starting farming、 support corresponding to “sponsorship” and “coaching” is important. Later、 as beginning farmers’ process of becoming established advanced、 support corresponding to “role models、” “exposure 、” and “challenging work” is important. This result shows that the role of support farmers change in the process by which beginning farmers become established.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2010 年度	500,000	150,000	650,000
2011 年度	800,000	240,000	1,040,000
2012 年度	500,000	150,000	650,000
総　計	1,800,000	540,000	2,340,000

研究分野：農学
科研費の分科・細目：農業経済学・農業経済学
キーワード：農業経営

１．研究開始当初の背景
（１）農業の担い手の減少と高齢化が進む中、農外からの新規参入者に対する支援が農地提供や資金調達などの面で整備されてきた。

しかし、多くの新規参入者は、経営技能や販路の獲得、地域社会への溶け込みなどで問題を抱える。今後、このようなソフト面で新規参入者を支える「橋渡し役」の量的・質的充実が欠かせない。

（２）先行研究では、経営資源の提供や支援チャネルの形成における「橋渡し役」の重要性が指摘されてきたが、「橋渡し役」の確保・育成という観点からの考察は行われていない。また、「橋渡し役」の養成が必要だという指摘がなされているものの、求められる「橋渡し役」像は明らかにされていない。

（３）研究代表者のこれまでの研究から、「橋渡し役」には、①経営資源の提供、②地域の他の支援チャネルとの結びつけ（経営資源の間接的な提供）、③支援提供の場のマネジメントなどが求められると考えられる。ただし、役割の具体的な中身は、支援形態に応じて異なることが予想される。また、「橋渡し役」が新規参入者を就農後も継続して支援する場合、新規参入者の経営成長ステージ（以下、ステージ）に沿って「橋渡し役」の役割が変化すると考えられる。

２．研究の目的

「橋渡し役」の質的・量的充実に向けて、「橋渡し役」となる人材の確保、能力開発、動機づけなど、多面的に接近していく必要がある。その中で本研究では、「橋渡し役」の人材確保方策や能力開発の目標を示すことを目的とする。

具体的には、「橋渡し役」の支援行動やその理由に着目して、支援行動の実態を把握し、新規参入者のステージに応じて変化・拡充する「橋渡し役」の役割の特性を明らかにする。あわせて、「橋渡し役」が役割を果たす中で必要なスキルや知識を獲得した経験、「橋渡し役」の確保・育成プロセスの事例分析などを通じ、「橋渡し役」の育成課題を提示する。

３．研究の方法

（１）理論的な整理

①関連分野の文献レビューを通じ、農業への新規参入における「橋渡し役」に求められる役割の理論的な検討を行う。

②支援形態の違いにもとづきタイプ分けを行い、「橋渡し役」の活動に影響する地域の営農条件や他の支援主体との関係性、また「橋渡し役」による支援の実績を把握する。

（２）「橋渡し役」の役割の抽出と「橋渡し役」による支援の重点時期の把握

「橋渡し役」の具体的な行動に着目して、求められる役割を抽出する。あわせて、新規参入者の定着プロセスにおいて「橋渡し役」による支援がより重要となる時期を特定する。面接による聞き取り調査を基本とし、観察法や質問紙調査もあわせて実施する。

（３）新規参入者および「橋渡し役」のキャリア分析による、「橋渡し役」育成課題の検討

①新規参入者の就農後のキャリアアップをステージによって把握し、ステージにおいて異なる役割を果たす「橋渡し役」像を提示する。

②「橋渡し役」と支援を受けた新規参入者の意識ギャップなどから、「橋渡し役」の能力開発のポイントを明らかにする。

③面接による聞き取り調査を基本とし、観察法や質問紙調査もあわせて実施する。

（４）「橋渡し役」が継続的に確保・育成され得る条件を検討

先進地域の事例分析をもとに、「橋渡し役」の人材が確保、育成されている事例を分析し、「橋渡し役」の育成課題を考察する。

４．研究成果

（１）理論的な検討および愛媛県Ｋ町を対象にした事例分析

①農業への新規参入者の「橋渡し役」として、行政、農協、地域の農家など各セクターにおいて新規参入支援を中心的に担う人材が想定される。その中でも本研究では、地域の農家が「橋渡し役」となる場合に焦点を絞り、分析を進める（以下、「橋渡し役」農家とする）。

また、関連分野も含めて先行研究を整理した結果、心理学などで用いられるメンタリングの概念が、「橋渡し役」農家の役割分析に援用できると判断した。

②新規参入の支援形態の違いをもとに、支援のタイプを公的機関主導、民間組織主導、公的機関と民間組織との連携という３タイプに分けた。本研究では、民間組織として、新規参入者と地域の農家とで構成される農家グループを取り上げることとした。

③愛媛県Ｋ町は公的機関が主導して新規参入者を継続的に受け入れてきた先進地域である。Ｋ町における地域の農家を対象としたアンケート調査（有効回答 81）より、次のような結果を得た。

一つは、新規参入者を支援しても良いかどうか判断する期間（以下、見極め期間）と「橋渡し役」農家の支援の重点時期についてである。地域の農家の多くが見極め期間を終えるのに、新規参入者の研修修了後３～４年必要となっている（図１）。地域の農家の見極め期間は、新規参入者に早くから接する受け入れ協議会員のそれよりも長い。研修修了直後は見極め期間に当たるため、地域の農家からの支援が手薄な時期といえ、ここでの「橋渡

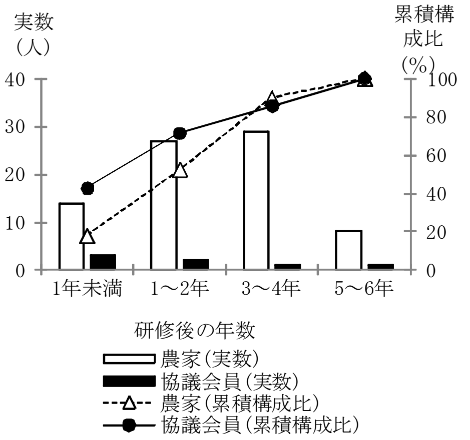

図１　見極め期間の長さ（地域の農家、協議会員）

注：凡例の「農家」は地域の農家、「協議会員」は行政、農協、農業公社、農業者組織代表で、研修生の採用段階から新規参入支援に関わっている。

し役」農家の支援活動が重要になると考えられた。

二つは、地域の農家による新規参入者の判断基準と強化すべき支援方策である。地域の農家は、新規参入者の農業技術に加えて、地域行事への参加の積極性を重視して支援するかどうかを判断する（図表略）。このことから、農協部会や自治会への参画を後押しする支援を強化することが、地域の農家からの支援提供の促進につながると考えられた。

④K町の「橋渡し役」農家２戸への聞き取り調査より、支援活動の問題点を整理した（図表略）。「橋渡し役」農家を継続的に確保・育成するためには、労力や精神面などでの「橋渡し役」農家の負担軽減が不可欠であることが指摘された。「橋渡し役」農家を組織的に支え、また、「橋渡し役」農家になる人材が継続的に供給できる仕組みが求められるといえた。

（２）「橋渡し役」農家の具体的支援行動の把握と新規参入者のステージに沿った「橋渡し役」農家の役割変化の解明

①民間組織主導による支援事例として、農家グループが新規参入者の受け皿となる香川県M町での事例を取り上げた。

②聞き取り調査の結果から、「橋渡し役」農家の支援行動をメンタリング機能の分類に従って整理した（表１）。

まず、キャリア機能に分類される「a スポンサーシップ」に相当するものでは、「橋渡し役」農家はグループ外部のキーパーソンとの仲介を行っていた。これによって新規参入者は、グループの構成員からは得られない情報を入手していた。グループ外部との仲介は、販売面でもみられ、新規参入者は市場関係者や消費者との結びつきを「橋渡し役」農家を介して得ていた。「橋渡し役」農家は、新規参入者が経営を確立させるのに必要な多くの支援主体との関係づくりを担っていた。

「b コーチング」に相当するものとして、栽培や販売に関する基礎的な知識の伝達があげられた。「橋渡し役」農家は、就農前の研修や就農後の巡回指導などを通じ、新規参入者の技術向上を促していた。また、販売面でも、マーケティング活動を通じて得た情報の伝達などによって、新規参入者の販売対応の強化が図られていた。

「c 保護」については、育苗の失敗に対する援助が多くの新規参入者から指摘された。育苗は作業性、収益性を左右する極めて重要な作業であるが、新規参入者の多くが問題に直面した経験を持っていた。育苗技術の助言に加え、共同育苗の実施や外部の育苗施設の紹介、グループ外からの苗の調達などの支援が行われていた。

「d 表出」に相当するものとして、栽培上の試験的な取り組みの成果をグループの会合などで紹介する機会が提供されていることが指摘された。新規参入者にとって、栽培技術を高める動機づけにもなっていた。

「e 挑戦的な仕事の提供」に相当するものとして、より高度な栽培技術の導入やグループ内での役割付与があげられた。新規参入者個々の特性や熟練にあわせた提案がなされ、能力向上の契機になっていた。

表１　メンタリング機能の分類にもとづく「橋渡し役」農家の支援行動（イチゴ作新規参入者）

メンタリング機能の分類			イチゴ作新規参入者に対する「橋渡し役」農家の支援の例
キャリア的機能	aスポンサーシップ	成長・発展を支援する（人間）関係	グループ外部の指導者（イチゴ高設栽培方式の開発者など）、農協・市場関係者・消費者などのネットワークの仲介
	bコーチング	コツを教える、フィードバックする	イチゴ生産・販売に関する知識・スキルの提供や問題点の指摘
	c保護	統制できない失敗についての緩衝行動、失敗をしないよう心配り	育苗の失敗のカバー
	d表出	能力を示す機会	試験的な取り組みの内容や成果の紹介の機会を提供
	e挑戦的な仕事の提供	成長・発展に向けた知識・スキルの伸長を図る配置	より高度な栽培技術の実施の提案、グループ内での役割提供
心理・社会的機能	f役割モデル	キャリアモデルとしての存在、栽培・販売管理の手本	経営管理の内容や仕事に対する姿勢の参考
	gカウンセリング	援助的・信頼的な話し合いの場、相談	営農面での相談、不安の解消
	h受容と承認	継続的な支持、励ましや肯定	栽培管理（摘葉の状況、出荷量、品質など）、販売管理（パック詰めの状況など）の内容を正当に評価
	i友好	日常の課業を超えた対応、親しみ	インフォーマルな付き合い、趣味の話題、視察旅行

資料：小野公一『キャリア発達におけるメンターの役割－看護師のキャリア発達を中心に－』などを参考に聞き取り調査より作成。

次に、心理・社会的機能に分類されるものをみていく。「f 役割モデル」にあてはまるものでは、「橋渡し役」農家の経営管理の内容や仕事に対する姿勢が参考になっているとされた。自らのハウスの栽培管理を適切に行いつつ、新規参入者への指導やマーケティング活動も行う「橋渡し役」農家の行動は、農業経営者としての指針となるという回答もあった。

「g カウンセリング」については、営農面での相談が行われ不安が解消されていた。新規参入者は経験蓄積が不足していることもあり、栽培管理に確信が持てない場合も少なくない。日常的に相談ができ安心感があったとの回答があった。

「h 受容と承認」に相当するものとして、栽培管理や販売管理の内容に対する評価があげられた。「橋渡し役」農家から管理の内容を認められ、自信になったとされた。

「i 友好・友情」にあてはまるものとしてインフォーマルな付き合い、趣味、視察旅行があげられた。農閑期における交流を通じて、親しみやすい雰囲気を醸成する機会が設けられていた。

以上、「橋渡し役」農家が新規参入者の定着に果たす役割は広範囲に及ぶと考えられた。対象とした「橋渡し役」農家はグループのリーダーでもあり、グループの構成員である新規参入者を、就農後も継続して支援していることが確認された。

②整理、分類された「橋渡し役」農家による支援について、支援の受領状況をたずねる質問紙調査を実施し、新規参入者９名より回答を得た。

就農直後と現在における支援の受領頻度をたずね、ステージ別に順位付けを行った。スタートアップステージは、就農直後の段階、経営確立ステージは就農後数年を経過し栽培面積を拡大した後の段階とした。就農直後と各ステージとを対比し、「橋渡し役」農家による支援の経時的変化を把握した（表２）。

まず、スタートアップステージでは、経過年数が短いこともあり、就農直後からの順位の変動は小さかった。ここでは、順位が二つ以上変化したものに注目したが、スタートアップステージではそれに該当するものがなかった。項目別にみると、「a スポンサーシップ」や「b コーチング」が上位になっていた。「a スポンサーシップ」は、生産、販売両面で新規参入者の定着を後押しする支援主体などとの仲介を行う支援行動である。就農後の比較的早い時期に、様々な人脈の形成に「橋渡し役」農家の支援が影響していることがうかがえた。

次に、経営確立ステージの新規参入者の回答をみると、「f 役割モデル」の順位が上がり１位となった。ステージが移行し、新規参入者のキャリアが進むに従って、「橋渡し役」農家の経営管理の内容や仕事に対する姿勢を参考にすることが重要性を増すことが示された。

表２　「橋渡し役」農家による支援頻度の順位の経営成長ステージ間比較

		就農直後での順位	現在	
			スタートアップステージでの順位	経営確立ステージでの順位
キャリア的機能	aスポンサーシップ	2	1	2
	bコーチング	1	2	[5]
	c保護	6	7	[8]
	d表出	9	9	(4)
	e挑戦的な仕事の提供	8	8	(6)
心理・社会的機能	f役割モデル	3	3	(1)
	gカウンセリング	4	4	[7]
	h受容と承認	7	6	[9]
	i友好	5	5	(3)

資料：面接による質問紙調査より作成。
注：１）各機能について、頻繁にあった(感じた)：4～なかった:0の５段階評価をもとにスコア化し、各機能の順位を析出した。各機能のスコアは表示を略している。
２）就農直後と現在を比べ、順位が二つ以上上がったものを（ ）、二つ以上下がったものを[ ]で囲んだ。

また、「d 表出」や「e 挑戦的な仕事の提供」も順位が上昇していた。より高度な取り組みを提案することで新規参入者の能力向上を図る支援行動は、キャリアが進むほど顕著になるとみられた。

「i 友好」は就農直後では５位となっているが、経営確立ステージでは順位が上昇していた。先の新規参入者の能力向上を図る支援とあわせて「i 友好」が位置づけを高めていることから、能力を高め「橋渡し役」農家に近い視点を備えつつある新規参入者と、様々な機会を通じて関係が強化されていることがうかがえた。

これに対して、「b コーチング」や「c 保護」、「g カウンセリング」、「h 受容と承認」は順位を下げていた。栽培技術や販売管理に関して技術や知識の習得が進んだ経営確立ステージでは、これらの部分での支援は減じていた。

以上、「橋渡し役」農家による支援は、就農直後からスタートアップステージにおいては大きな変化が認められないものの、経営確立ステージにかけてウエイトが置かれる点が変わることを明らかにした。新規参入者のキャリアに沿って役割を変えていく「橋渡し役」農家像を示すことができた。

③「橋渡し役」農家と被支援者である新規参入者の意識ギャップ

新規参入者と「橋渡し役」農家との回答の

差異を確認した（図表略)。全体的に、「橋渡し役」農家が考える支援頻度に比べて新規参入者の感じる受領頻度が低い傾向にあった。特に「c 保護」、「e 挑戦的な仕事の提供」、「h 受容と承認」では両者のギャップが大きかった。また、ステージ間の相違をみたところ、「d 表出」については、「橋渡し役」農家が両ステージ同等と考えているものの、スタートアップステージの新規参入者は受領の頻度は高くないと評価しているというギャップがあった。

ギャップの存在は「橋渡し役」農家にとっては支援スキルをより一層高めなければならない点を示していると考えられた。また、「橋渡し役」農家が１人で多くの新規参入者を支援していることも、このような意識ギャップの発生要因になっていると推察された。

（３）「橋渡し役」農家による効果的な支援、「橋渡し役」農家の確保・育成方策の検討

①公的機関と民間組織の連携による支援タイプである北海道Ｂ町を対象とした事例分析を行った。

②農家グループ（Ｎグループ）が活動するのはＢ町のＦ地区である。Ｆ地区では農家グループが設立される以前から、地域の農家が新規参入者の受け入れ支援を行ってきた。2003年以降、計７組の受け入れを実現したが、引き続き新規参入者の就農、定着を支援するため、地域の農家と先輩新規参入者によってＮグループが設立された。

Ｎグループの役割は、一：就農候補地探しと斡旋、二：ハウス資材や機械類の調達案の検討、三：実践農場（地区に新たに建てられた）の管理・運営、四：研修生の技術習得に対する支援、五：研修生の地域社会への参入と生活面のフォロー、六：継続的な新規参入者の受け入れに向けた広報活動の実施、にまとめられた。Ｎグループの設立によって、Ｂ町の支援体制は従来の公的機関主導のものから、農家グループと公的機関とが連携する体制へと再編された。

これまでＢ町では、公的機関に研修受け入れを依頼された地域の農家が「橋渡し役」農家となってきたが、Ｎグループが新規参入者を支援することによって、「橋渡し役」農家が提供してきた支援を組織的に行えるようになった。構成員が「橋渡し役」農家の役割を分担することも可能になり、「橋渡し役」農家の負担軽減とともに支援の充実が図られた。

また、Ｎグループでは、先輩新規参入者が次に続く新規参入者の研修を受け入れるようになった。このことは、Ｎグループが「橋渡し役」農家となる人材を継続的に供給・育成する機能を有していることを示している。

さらに、Ｎグループでは、就農相談会などでの就農面談から関与するとともに、研修受け入れ前から地域への溶け込み支援を行っている。構成員に地域の農家が含まれていることから、Ｎグループによる対応は、地域の農家の見極め期間をカバーするものであるといえる。

以上から、先輩新規参入者と地域の農家による支援グループの形成が、新規参入支援の充実に加え、「橋渡し役」農家の確保・育成の点でも有効であると考えられた。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 4 件）

①（投稿中、掲載決定済）島　義史、農業への新規参入における「橋渡し役」農家の役割－イチゴ作新規参入者を対象として－、農林業問題研究、査読有、第 49 巻第 2 号、ページ未定

②（投稿中、掲載決定済）島　義史、新規参入支援における支援主体の連携－北海道 A 町における施設トマト作による新規参入を事例として－、農業経営研究、査読有、第 51 巻第 2 号、ページ未定

③島　義史、独立就農による新規参入の支援方策、関東東海農業経営研究、査読有、102、2012、pp19-28

④島　義史、新規参入者の受け入れにおける地域の農家の支援参加に向けた課題－公的機関が主導する支援での橋渡し役の確保に着目して－、農林業問題研究、査読有、第 47 巻第 2 号、2011、pp.102-107

〔学会発表〕（計 4 件）

①島　義史、農業への新規参入における橋渡し役の役割－イチゴ作新規参入者を対象として－、第 62 回地域農林経済学会大会、2012 年 10 月 21 日、大阪経済大学

②島　義史、新規参入支援主体における支援主体の連携－北海道 A 町の施設トマト作による新規参入を事例として、平成 24 年度日本農業経営学会研究大会、2012 年 9 月 22 日、宮崎大学

③島　義史、独立就農による新規参入の支援方策、平成 23 年度関東東山東海農業経営研究会研究大会、2011 年 7 月 21 日、農林水産技術会議筑波事務所

④島　義史、新規参入者の受け入れにおける地域の農家の支援参加に向けた課題、第60回地域農林経済学会大会、2010年10月24日、京都大学

６．研究組織

(1)研究代表者

島　義史（SHIMA YOSHIHIRO）

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究
機構・北海道農業研究センター・水田作研
究領域・主任研究員
研究者番号：10414781